鐔易

上卷

へ13
1290
1

へ 13
1240
巻 1-3.

明治三十九年一月二十九日
水谷弓彦氏寄贈

江戸石屋

帝国図書館蔵

草双紙を著して作料を納ふめ紙戯作者の黒人と
稱しあぐさるを是をあらんとものを素人と号さを浮世繪も
亦こゝろ是一日歌川國信子著さを所の草双紙を携来ゆえ
ゆゑ〳〵のと云巻を用ひ雅も作も雙々絶々奇々妙々
の事ハ素人ハあゝぞを作もすゝ黒人ハ近し其素人を
其黒人と守る所其素人を初〳〵其素人を守るゝ
白と黒との味ひをかのゆんぢう屋が節用集ゆゝうづぬ
ゆゑ〳〵是を序とす

京山人識

涼仙堂記

雀躍之圖
事へ八の巻ハ
後編談兌の
時とえて
知るべし
百合若大臣ハ常ハ鷹と愛々して
市郎丸と号け是ハ飼せんとて
領國の百姓作次といへるものハ
多くの雀をよせるよりろ〜
作次途中ゆく睡眠のときに
彼雀ども
えさらぬ
とりこ出
る

夢入陽堂夜
似年歩襪軽
盥滝出水
遊女長谷川
雲住
家来軍兵衛
唐遊君蘭麝
別府前生雲住

百合若の妹潰沖
後ふ藝者
天狗のろく
初
共角
ぐろぶやの太郎
五郎

藤原百合若丸
平川の流れ
鳥も百合若
田のまるい
慶久天

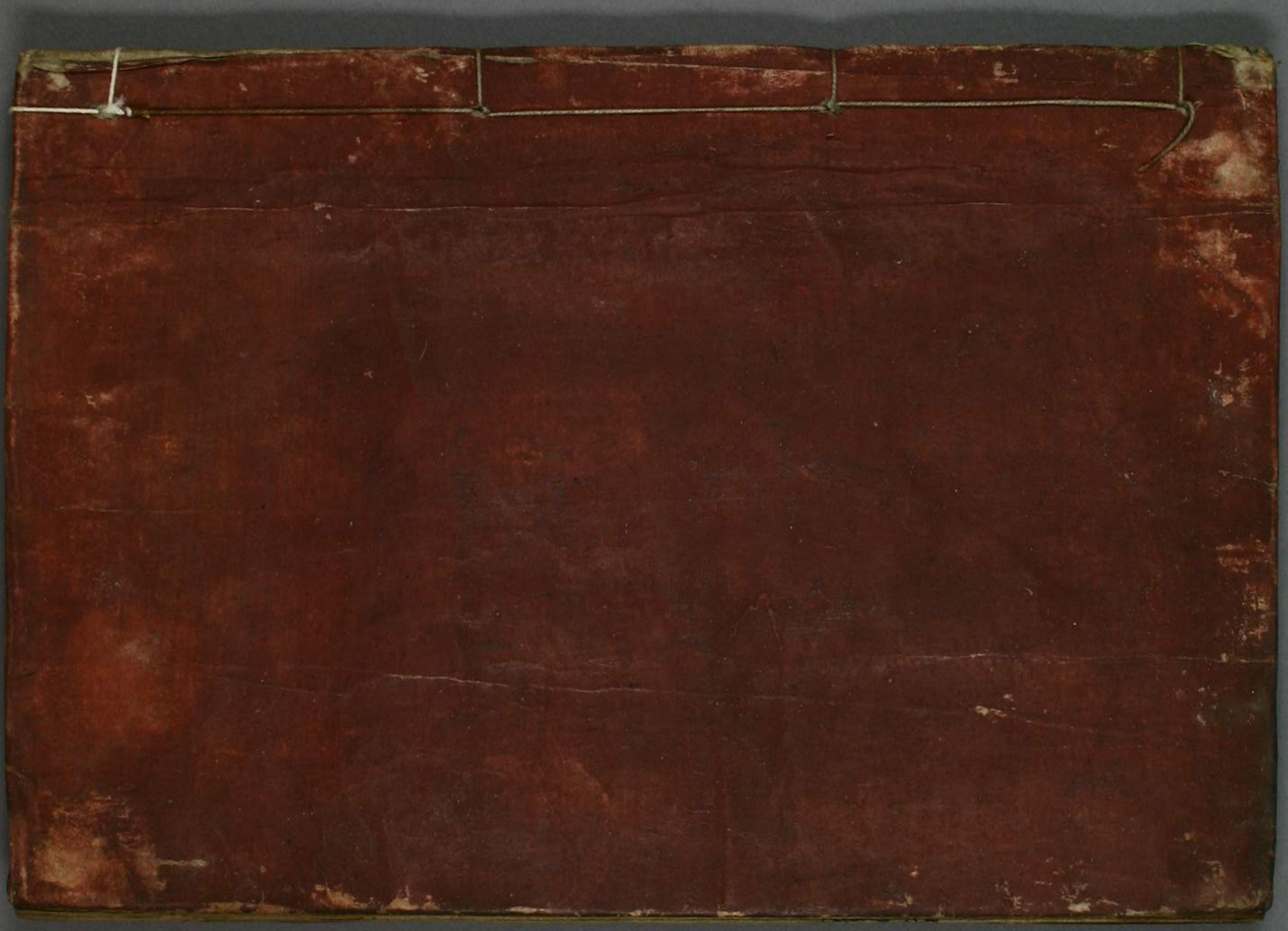
受賜終身當報德
知家千里
可傳書
連力察
雲閑

別府の太郎二清連
○別府の太郎教住
暗香浮動
月黄昏
世梅どるふ
月の白ひる
嵐雪
○女達れと髪の小枝

二
三韓の大王
たゝまゝ王の
○梅夫人
たゝまゝ王の
○太子
軍兵を
炭団でまつや
雪礫
晋其角
○紀將軍
晉伯
晉伯が妻
○五欄女

良
稚

雲
輪

軍
清
平

輪車
静